

号外

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2018.10.6

目次

第 43 回全道大会(土別大会)開催 .....1  
 A分科会.....2  
 B分科会.....2  
 C分科会.....3  
 応急危険度判定机上訓練体験...4  
 編集・発行:(一社)北海道建築士会  
 情報委員会

URL <http://www.h-ab.com/>

## 『未来へつなぐ 天塩の流れ 人と大地の躍動』

### 第 43 回北海道建築士会全道大会(土別大会)開催！

北海道胆振東部地震発生から1ヶ月。様々な思いを胸に、天塩の流れとともに人と大地が躍動するすこやかなまち「土別市」で未来を語るべく、第43回北海道建築士会全道大会（土別大会）に全道各地から342名の北の建築士が参加した。

土別市民文化センターで開催された大会式典。物故者への黙祷、土別支部の飯田 誠さんによる綱領朗読ののち、実行委員長あいさつに立った土岐 浩二 土別支部長は、道内32支部からの参加者ならびに多くのご来賓に謝意を述べた上で『北海道命名150年の節目の年に、平成最後となる記念すべき大会をここで開催できたことに喜びを感じるとともにその責任も痛感しながら少数精鋭で準備を進めてきた。豊かな地域社会、故郷の歴史や文化をしっかりと未来へ繋ぎ、先人の知恵や思いを継承し、北の建築士として、その先頭に立って行こうではありませんか！』と高らかにあいさつした。続いて、大会長あいさつに立った高野 壽世 会長は、『創立45年を見据え、地域の起爆剤として大会開催を決意された土別支部のみなさんとの交

流により、士会の魅力に改めて触れ、気づく機会になり明日からの各支部の活動に繋がることを期待しております。』とあいさつした。また、来賓を代表し、平向 邦夫 北海道建設部建築企画監、牧野 勇司 土別市長、岡本 森廣 公益社団法人日本建築士会連合会副会長の3名より祝辞をいただいた。式典のメインとなる会長表彰では、187名の受賞者を代表して、土別支部の鈴木 勉さんが登壇し、表彰状を受領した後、あいさつした。分科会報告では、A分科会・須藤 志津子さん、B分科会・北野 学さん、C分科会・大平 健二さんから意見交換の様子や講演の感想など、又、地域貢献活動センター助成事業についても本間 恵美さんから詳細な報告があった。その後、土別支部の柏倉 晶憲さんが、『私たち建築士は、時代の区切りを迎えるに当り、地域の創生・発展のため研鑽してきた技術を未来へ繋ぎ、人と大地の躍動するまちづくりに貢献することを決意します』と力強く大会決意文を読み上げ、結びに、山内 一男 函館支部長が来年、函館市で開催される全国大会(北海道大会)への参加を呼びかけた。



土岐支部長挨拶



飯田青年委員長による綱領朗読

## A 分科会

未来へはばたく力を育てる

～子どもと地域と学校建築～

女性委員会の活動「子ども・家・Hokkaido」は 20 年が経つ。A 分科会では子どもたちの学習の場、人間形成の場として過ごす学校建築を取り上げ、朝日町糸魚小学校を会場として講演と見学を行った。

この小学校の特徴は、自然エネルギーの利用、地場産材の活用、学童数 34 名という少人数の学習空間が特徴ある学校建築とあって築 10 年目であるが、会員の関心も高く、参加者は 42 名であった。

「自然光あふれる学び舎」と題して建築家加藤誠氏（㈱アトリエブシク専務取締役）が講演。小学校 100 年の歴史、多雪地帯、子供たちと教師の家族的な関係を基本に、環境、光、風、熱について説明された。

最初に設計するにあたっては多くの人と意見を共有しながら進めていった。プランは、南北に教室、中央にみんなの集まるスペース、体育館を同じ棟にし、一体化することで親密性と建物で消費されるエネルギーを抑えている。一方、中央の明るさを確保するためのトップライトは光と熱、風を供給している。構造は RC 造、鉄骨造にエゾマツ、トドマツの集成材が屋根架構として使われている。見学は、安達教頭と加藤氏の案内で子ども達の日常生活を紹介しながら、創る側、使う側の視点が興味深かった。



△トップライトのある多目的スペース

参加者からは、『ガラス屋根と雪の関係は？』『子ども時代にこんな学び舎で学びたかった』との声が聞かれた。

建物を訪れて最初に感じたことは、光がいっぱい！心も身体ものびのび～。生まれ育った土地の光や風の中で成長してゆく子供たち。思い出に残る空間となる事を願い、改めて建築空間の役割の大切さを思った。



△特徴的な構造の体育館で行われた講演

## B 分科会

マチの知名度アップから学ぶ!!

未来へつなぐまちづくり

B 分科会は土別市から移動し「絵本の里」である剣淵町の公共建築優秀賞を受賞した「剣淵絵本の館」を会場として、土別支部の土別市、剣淵町、和寒町の 1 市 2 町のそれぞれのマチの知名度アップに貢献された方々から、そのきっかけ、現在に至る道のりや苦労などのお話を伺うことから始まった。



△剣淵町、絵本の里外観

最初は剣淵町長 早坂純夫氏のお話で、氏は剣淵町役場に奉職し職員として教育委員会時代に「絵本の館」に務めたことがあり、その総務課長で定年退職後、剣淵町長をとなり現在 2 期目である。

現在の絵本の館は、2 代目でもともと剣淵町には昔から民間主体の絵本の里を作ろうという機運があ

ったことから「絵本の館」の建設ができた。

絵本という唯一無二の一村一品運動で全国からお客様が剣淵町にきてくれまちの活性化に役立っているとのことであった。

次は士別市議会議員の井上久嗣氏のお話で「サフォークのまち」となった運動の歩みの説明があった。

最初は民間主体で20年ほど運動が進んできていたが、そのうち行政も加わり現在の形となっている。そのサフォークを核にまちづくりが進んでいるとのこと。

最後の講演は和寒町の袈田道悟氏で、氏は全日本玉入れ協会の会長で、玉入れで和寒のまちおこしを行ってきた。全国的にも盛んになってきたが、発祥の地が和寒であることから、協会本部は和寒で、玉入れの聖地として全国に名をとどろかせており、全国には支部もあり、また有名企業内のレクなど取り入れられつつあり全国的な広がりを見せているとのこと。

3名の講演を聴講後、意見交換会が開催され、それぞれの質問に対し講師たちが丁寧に答えた。

最後はまちづくり副委員長の清水浩史氏からまとめの挨拶があり、B分科会が終了した。



士別支部を構成する1市2町はまちの特色を自らつくり上げ、知名度アップにつなげている。それぞれ、「サフォークのまち」の士別、「絵本の里」の剣淵、「全日本玉入れ選手権」の和寒とオンリーワンのまちづくりを進め、地理的条件や歴史的背景に依存しないポジティブなまちづくりは、全道どこの市町村でも参考になるのではないだろうか。

## C分科会

北の大地で技術開発

～士別の大地で試される世界品質～

四季のはっきりした内陸性気候の士別市では、北海道でも稀な豪雪寒冷地体であり、世界的タイヤメーカーの試験場や、自動車メーカーの試験コースが設置され、冬の厳しい寒さを活かした寒冷地試験等が盛んに行われる「試験研究のまち」で有名である。

C分科会においては、士別市内に自動車テストコースを管理・運営し、国内外自動車・タイヤ・部品メーカーの開発試験向けに賃貸業務を行われている「(株)交通科学総合研究所」、今田美明氏に講演をしていただいた。

この北海道各地区に自動車関連テストコースが全部で30コース程度存在しており、上川地区で約半分を占め、士別市においては交通科学研究所、トヨタ自動車、ダイハツ工業、ブリヂストン、ヤマハ発動機等国内一流メーカーの研究コースが存在していた。主に冬場を想定した研究をされており、雪国ならではの雪道対策スタッドレスタイヤの研究が盛んであるようだ。試験コースについても何種類も存在し、高速周回路や旋回試験路、ブレーキ試験路等16種類に渡り、最も感心したのは滑りやすい試験路（低 $\mu$ 路）についてである。冬道を想定しており、ブレーキ（ABS）操縦性安定性などの試験に不可欠なコースで、特殊加工を施した路面に散水し、路面の摩擦係数を低くする技術が施されているようである。

一概に試験コースとは言え、圧雪路の造成も工程が多岐にわたり、自然条件との戦いでもあるため、建築よりも土木的要素が強く感じられたが、「世界品質」を目指す視線は建築にも共通することであろう。



## 被災地応急支援委員会

応急危険度判定

机上訓練体験

今年から、建築士会で開催する「北海道建築士会応急危険度判定士認定講習会・机上訓練」が認定講習となったこともあり、本大会では分科会とは別に各行事の空き時間を利用して頂き、体験版のミニペーパー机上訓練を2会場に分けて実施致しました。（所用時間 30分程度）

1回目：10/6(土) 10:30 - 12:30 土別グランドホテル

体験者数約 30人

2回目：10/6(土) 12:30 - 15:00 土別市民文化センター 体験者数約 20人

胆振（いぶり）地方中東部 M6.7 最大震度 6 強の発生～余震～昨日の震度 5 弱の地震より強い関心を受けているなか、体験をして頂きました。

[体験者コメント]

- ・本受講により応急判断力の必要性が強まった。
- ・支部にて本講習が開催されたとき、受講したい。

[応急危険判定委員会]

・この機会により多くの会員が認定講習受講して頂けることを期待しております。



△体験の様子

前日に行われた青年サミットでは会長を囲み親

睦を深めました。



### 編集後記

夜中の大きな揺れで目を覚ました「胆振東部地震」から一か月が過ぎました。全道民、建築士会も通常の生活に戻る事が復興に繋がります。今日の全道大会も、地震を気にしながら前向きに活動を続ける参加者が多くいました。建築士・建築士会として、今回の教訓を踏まえて、地域防災や被災地支援活動等の社会貢献に、より多くの取り組みを進めましょう。

常務理事 牛田健一

これからも青年らしい活躍を期待します。

編集発行／北海道建築士会情報委員会

情報委員会委員長/斎藤 勝哉

副委員長/早川陽子・森 勝利・前田 繁

委員/熊谷 智・柏倉晶憲

村山賢司・片岡哲二